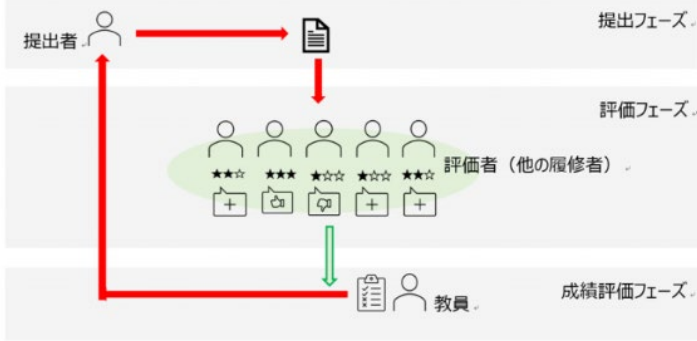




ワークショップ



※上図はイメージです。実際に「いいね」機能は搭載されていません。

ワークシヨツプ機能

期待できる効果

- 学生の学びの質の向上
 - 履修者が相互に評価し合うことで、他者の考え方を吸収したり、他者の成果物に対して適切な評価を提示するためにより深く学ぶ姿勢を身につけることができます。
- (教員の) 評価に掛ける時間の節約
 - 履修者同士で評価し合う形をとることで、数百名規模の授業でも、それぞれの課題への評価を与えることが可能となります。また、評価基準、評価手順を決めることで、教員の時間の節約にもなります。
- 履修者の理解状況に基づく授業進行
 - 授業の回ごとに課題を積み重ねることで、履修者自身が本科目の理解状況を確認する機会を設けることができます。

利用するためのポイント

- (相互評価する際の) 評価基準を明確にした上で、評価の前に説明を丁寧に行う。
 - 事前に担当教員がルーズリック等を用いて、評価の基準を明文化しておく和良好的です。一方で、履修者それぞれで評価の基準が曖昧になってしまふと、個々の相互評価でバラツキが生じてしまいます。また、評価開始前に評価に関する説明や困った時に相談をするような体制を示すことで、履修者に他者を評価する事に対する不安を与えないことが重要となります。
- 目的は学生の学びの向上であり、学習のための評価です。評価自体は目的ではなく、手段です。

ワークショップ

- コースの「編集モード」をOnにして、「+活動またはリソースを追加する」から「ワークショップ」を選択してください。



設定項目	内容	備考
一般	名称と説明を設定できます。	
評定設定	「提出に対する評点」と「提出合格点」を設定できます。	
提出設定	提出設定（履修者からの課題提出受付の設定）ができます。	
評価設定	評価設定（履修者が他者の提出物を評価するための設定）ができます。 「評価のインストラクション」に評価説明等を入力します。	
フィードバック	評価者のフィードバック（履修者が他者を評価する際のコメントフィードバック）を設定できます。	
提出例	評価練習用に事前提出を許可するかを設定できます。	
利用	提出の受付日時、評価期限を設定することが出来ます。	
Turnitin Plagiarism プラグイン設定	剽窃チェックシステムに関する詳細を設定できます。学生が課題を提出すると、自動的に剽窃チェックが行われるように設定されています。不要な場合は、オフにしてください。	100字/words以下の短い課題はエラーが出るため、設定しないでください。
モジュール共通設定	特定の学生のみに表示させるか、グループ設定などを確認できます。	
利用制限	特定の活動を終了していないと受けられないなど、制限をかけることができます。	
活動完了	活動完了に関する詳細を設定できます。	
タグ	タグを設定してカテゴリズできます。	
コンピテンシ	コンピテンシを設定して、カテゴリズできます。	

Turnitin Plagiarismプラグイン

• 提出された課題の類似度の確認

- 【すべての提出を表示する】をクリックします。
- 履修者の提出ファイルの下にTurnitinIDとともに類似判定が%で表示されます。
※履修者がファイル提出した直後は、「キューに投入済み」と表示されます。しばらくするとTurnitinIDが表示され、その後類似判定%が表示されます。
※提出期間経過後、しばらくたっても類似度判定が表示されず「キューに投入済み」の状態が続く場合は、編集画面の”Turnitin Plagiarismプラグインの設定”より、「提出を更新する」を押すことで、1～2日経過後に判定結果が表示される場合があります。
- %をクリックするとTurnitin画面で提出課題が表示されます。類似箇所にはマーカーで色が付きます。右メニューにある【パーセント表示】をクリックすると、その一致の概要が表示されます。



選択	ユーザ画像	IDナンバー / 氏名 / Name	IDナンバー	メールアドレス	ステータス	評点	編集	最終更新日時 (提出)	ファイル提出
		1112 学生 太郎 1112	1112	stu001@samplemail.com	評定のために提出済み 未採点	評点	編集	2019年 09月 18日 (Wednesday) 14:54	課題-wiki.docx Turnitin ID: 1174976007 78%
		1115 学生 花子 1115	1115	stu002@samplemail.com	評定のために提出済み 未採点	評点	編集	2019年 09月 18日 (Wednesday) 14:55	課題-wiki2.docx Turnitin ID: 1174977216

設定方法

1. 「ワークショップ名」にワークショップの名称を入力します。
2. 評定を設定します。「提出に対する評点」と「提出合格点」を設定します。次に「評価に対する評点」と「評価合格点」を設定します。※評定方法を「累積」と設定した前提で設定方法を案内します。その他の評定方法設定の説明は、[Moodle Docs](#)を参照してください。
3. 提出設定（履修者からの課題提出受付の設定）を行います。「提出のインストラクション」に課題の指示等を入力します。必要に応じて、「提出の最大添付数」や「最大提出添付サイズ」、「提出期間後の提出」を許可するか等を設定します。
4. 評価設定（履修者が他者の提出物を評価するための設定）を行います。「評価のインストラクション」に評価説明等を入力します。自己評価（履修者が自分自身の提出物を評価すること）させる場合は、「自己評価を使用する」を有効にします。
5. 評価者のフィードバック（履修者が他者を評価する際のコメントフィードバック）を設定します。「全体フィードバックモード」では、【無効】【有効および任意】【有効および必須】から選択します。フィードバックに添付を許可する場合は、「全体フィードバックの最大添付数」を設定します。「結論」は、担当教員が「成績フェーズ」終了時に履修者全体に提示するコメントフィードバックを設定できます。
6. 「提出例を使用する」を有効にすると、教員が作成した解答例などを履修者に提示して評価させることができます。提出例を使用する場合は、後述のセットアップフェーズで設定します。
7. 「提出開始日時」、「提出終了日時」を設定します。【提出終了日時後、次のフェーズに移行する】にチェックすると、「提出終了日時」後に自動的に評価フェーズに移行します。続けて「評価開始日時」、「評価期限」を設定します。
8. 類似度判定を実施する場合は、「Turnitinを有効にする」を有効にします。
9. 【保存してコースに戻る】をクリックします。コースにワークショップが追加されます。

セットアップフェーズ

1. 設定を完了すると、すべてのフェーズとタスクが表示されます。現在のフェーズはハイライト（薄緑色）され、完了したタスクには黄緑色のチェックマークが入ります（未着手が灰色のチェックマーク）。現在の状態はセットアップフェーズで、タスクは「提出のインストラクションを記述する」まで完了していることがわかります。次のタスク【評価フォームを編集する】をクリックします。
2. 評価フォームの評価項目を設定します。「説明」に評価項目の説明を入力して、「最大評点」を設定します。【保存してプレビューする】をクリックします。
 - * 「アспект」とはワークショップ機能上では「評価要素」という意味合いで定義します。
 - * 一度設定したアспектを消したい場合には、当該アспектの説明部分をすべて消してください。設定内容を確認するには「保存してプレビューをする」を押します。設定内容が消えていない場合には「HTMLタグ」が残っていることが原因だと思われます。説明の入力エディタの</>を選択してHTML表示モードに切り替えを行い、入力フォームに残っている内容をすべて消去してください。
3. 評価フォームのプレビューを確認します。内容を確認できたら【編集フォームに戻る】で評価フォームの編集に戻ります。【保存して閉じる】をクリックします。

ピアレビュー課題

セットアップフェーズ

セットアップフェーズ 現在のフェーズ ●	提出フェーズ 提出フェーズにスイッチする○	評価フェーズ 評価フェーズにスイッチする○	成績評価フェーズ 成績評価フェーズにスイッチする○	終了 ワークショップを閉じる○
<ul style="list-style-type: none">✓ ワークショップ説明を設定する✓ 提出のインストラクションを記述する✓ 評価フォームを編集する✓ 提出例を準備する✓ 次のフェーズにスキップする	<ul style="list-style-type: none">✓ 評価のインストラクションを記述する✓ 提出を割り当てる期待数: 2提出数: 0割り当て数: 0		<ul style="list-style-type: none">✓ 提出に対する評点を計算する期待数: 2提出数: 0 <ul style="list-style-type: none">✓ 評価に対する評点を計算する期待数: 2提出数: 0 <ul style="list-style-type: none">✓ 活動の結果を提供する	

説明 ▼

ピアレビュー課題です。

提出例 ▼

あなたは提出例を提供する前に評価フォームを定義する必要があります。

累積評価

すべてを展開する

アспект1

説明

テーマが明確になっているか

可能な範囲の最高評点 / 使用する評価尺度

タイプ 評点

尺度

BTEC

最大評点

10

加重

1

アспект2

アспект3

さらに2個の空白アспектを追加する

保存して編集を続ける 保存してプレビューする 保存して閉じる キャンセル

セットアップフェーズ

1. 次のタスクは「提出例を準備する」となっています。ページ下の【提出例を追加する】をクリックします。
※前述の設定で「提出例を使用する」を有効にしていない場合は表示されません。
2. 「タイトル」を入力して、「提出コンテンツ（オンラインテキストによる課題例）」を入力、もしくは「添付（添付ファイルによる課題例）」にて提出例を作成します。【変更を保存する】をクリックします。
3. 参考評価（担当教員による評価の一例）を履修者に提示する場合は、この提出例を評価する必要があります。評価するため【続ける】をクリックします。
4. 評定を選択してコメントを入力し、【保存して閉じる】をクリックします。
5. セットアップフェーズが完了しました。次の「提出フェーズ」に移行するには【提出フェーズにスイッチする】をクリックします。確認が表示されます。【続ける】をクリックすると、提出フェーズにスイッチします。
6. 提出フェーズに移行後、履修者は提出が可能となります（セットアップフェーズ設定時に提出期限を設定している場合はその期間内）。提出期限終了後、履修者が課題を提出していることを確認し、提出フェーズのタスク【提出を割り当てる】をクリックします。

セットアップフェーズ

セットアップフェーズ	提出フェーズ	評価フェーズ	成績評価フェーズ	終了
現在のフェーズ ●	提出フェーズにスイッチする ○	評価フェーズにスイッチする ○	成績評価フェーズにスイッチする ○	終了 ワークショップを閉じる ○
<ul style="list-style-type: none">✓ ワークショップ説明を設定する✓ 提出のインストラクションを記述する✓ 評価フォームを構築する✓ 提出例を準備する✓ 次のフェーズにスキップする	<ul style="list-style-type: none">✓ 評価のインストラクションを記述する✓ 提出を割り当てる		<ul style="list-style-type: none">✓ 提出に対する評点を計算する✓ 評価に対する評点を計算する✓ 活動の結果を提供する	

説明 ▼
ピアレビュー課題です。

提出例 ▼
ピアレビュー課題の提出例
評点: 80 / 80

再評価

提出フェーズ

1. 提出フェーズに移行後、履修者は提出が可能となります（セットアップフェーズ設定時に提出期限を設定している場合はその期間内）。提出期限終了後、履修者が課題を提出していることを確認し、提出フェーズのタスク【提出を割り当てる】をクリックします。

2. 【提出を割り当てる】ページでは、3通りの割り当て方法があります。

- 手動割り当て

担当教員またはTA等が1件ずつ提出物に対してレビュー（評価）する・されるを割り当てます。

- ランダム割り当て後の微調整でも利用可能です。
- 左の「評価者を追加する」で、参加者（履修者）を評価する人を割り当てます。
- 右の「評価対象者を追加する」では、参加者（履修者）が評価する人を割り当てます。
- どちらか一方でも設定すれば、両方に反映されます。

- ランダム割り当て

- 「割り当て設定」に基づいてランダムに提出物に対してレビュー（評価）する・されるを割り当てます。
- グループモード：事前に履修者をグループ分けした際に利用できます。
- レビュー数：履修者が評価する件数（「提出あたり」では一つの提出物に対して何名が評価するか、「評価者あたり」では評価者が何名分の提出物を評価するか）を設定します。
- 現在の割り当てを解除する：一度ランダム設定完了後、割り当てを一旦リセットしてから「レビュー数」の設定内容を反映したい際にチェックを入れます。チェックを入れないと、割り当てが完了していない対象者のみが割り当て対象となります。
- 参加者は何も提出せずに評価できる：設定された提出期間中に履修者自身が課題を提出しなかった場合でも、評価者として割り当てる際にチェックを入れます。
- 自己評価を追加する：ランダム割り当てのレビュー数の外数として自身の提出した課題を自分自身が評価対象とすることができます（セットアップフェーズの「評価設定」項目の「自己評価を使用する」欄にチェックを入れておく必要があります）。

- スケジュール割り当て

課題の提出期限終了後に自動的に同ページ内の「割り当て設定」に基づいてランダムに提出物に対してレビュー（評価）する・されるを割り当てます。

- スケジュール割り当てを有効にする：チェックを入れた場合、提出フェーズに移行後、自動的に割り当てをします。
- ステータス：セットアップフェーズの「利用」項目で締め切り日時を設定されているか確認できます。設定されていないとスケジュール割り当ては無効となります。
- 割り当て設定の欄は「ランダム割り当て」と同じです。



評価フェーズ

1. 評価フェーズでは、ページ内の下部「ワークショップ評価レポート」に履修者の提出した課題が表示され、評価者（＝担当教員によって割り当てられた履修者）、評価対象者（＝課題提出者）が表示されます。すでに評価者が評価対象者の評価を完了しているときは、評点が表示されます。
 - 評価フェーズは、履修者同士が評価し合うフェーズとなるため、担当教員の作業は特にありませんが、履修者の評価内容（または未評価の課題）に対して、教員が個別に評価の修正（加重設定やオーバーライド）をすることができます。対象者の評価点数欄をクリックすると修正画面に遷移します。
 - **【例1：担当教員が評価に修正を加えるケース】**
 - 評価者（Aさん）が適切な評点を入れないことで、被評価者（＝課題提出者）が不適切な評価を受けてしまう場合。
 - 評価者（Aさん、Bさん）が不適切な評価（例えばそれぞれ100点の評価）をしたことにより、正当な評価を行った評価者（Cさん、例えば30点の評価）の「評価に対する評点」の点数が低くなってしまう場合。
 - **【例2：評価者の評点の除外】**
 - 除外したい対象の評点（上記例では、Aさん、Bさんが設定した評点）をクリックして、評定加重をゼロにすることで除外可能です。
 - **【例3：評価に対する評点の修正】**
 - 評定加重をゼロにすると除外した評価者（上記例ではAさんBさん）の「評価に対する評点」も0点換算されます。「評価に対する評点」もオーバーライド可能ですので、必要に応じて修正してください。
2. 履修者同士の評価が完了（評価フェーズの完了）し、次の「成績評価フェーズ」に移行するには**【成績評価フェーズにスイッチする】**をクリックします。

成績評価フェーズ

1. 成績評価フェーズでは、本ワークショップでの最終評点を計算します。評価者から与えられた被評価者の「提出に対する評点」（提出物そのものに対する評価）と、その評価者の「評価に対する評点（評価内容そのものに対する評価）」を計算します。
 - 一つの提出課題に対して複数の評価者がいる場合、評価者に設定する「評価加重」が重要になります。「評価加重」は、評価者の評価の重み（重要度）付けになり、重みを持つ評価者の評価が重要視されます。そのため「提出に対する評点」は、「評価加重」を加味した加重平均で評点が計算されます。
 - 「評価加重」は、「評価に対する評点」にも関係します。「評価加重」で重みを持った評価者が基準となり、その評価者とはかけ離れた評価を行った評価者には、低い評点をつけることができます。例えば、あまりに基準とはかけ離れた、いいかげんな評価を行った評価者に対しては、評点を低くつけることでペナルティとする、というような使い方になります。
2. 「評価加重」を使って基準とする評価者を設定します。
例：一つの提出課題に対して、それぞれ3人の評価者が24点、56点、72点と評価している場合
基準とする評価者の評点箇所をクリックします。（いずれかの点数をクリック）
3. 提出課題に対する、この評価者の評価内容が表示されます。評価設定の「評価加重」で、加重を設定します。値が大きいほど、この評価者の評価加重が大きくなります。完了後、【保存して閉じる】をクリックします。
4. 成績評価設定の「評価の比較」を設定します。基準とする評価者を元に、その他の評価者の評点に影響します。【非常に甘い】では、基準とする評価者から、かけ離れた評価をしている評価者に対しても、甘めの評点が与えられますが、逆に【非常に厳しい】では、かけ離れた評価をしている評価者に対して、厳しめの評点が与えられます。最後に【評定を再計算する】をクリックします。
5. 被評価者の「提出に対する評点」と、その評価者の「評価に対する評点」が計算され与えられます【評定を再計算する】は何度でも行えるため、「評価加重」や「評価の比較」を変更して、計算をやり直すこともできます。
6. 最終評点が決まったら、成績評価フェーズを終了します。終了するには【ワークショップを閉じる】をクリックします。